

中学2年生がデータサイエンス講座を行いました

令和7年7月1日（月）、滋賀大学データサイエンス学部准教授の伊達平和先生をお招きし、問題意識から問いや仮説を立てる方法について教えていただきました。

2年生は高志学5月研修でグループ探究を行い、その後自分の探究を始める準備として、マインドマップやロジックツリーを書きながら、テーマ探しに向き合ってきました。

この日は福井県教育総合研究所の講座の一環として、県下の小学校から高校まで多くの先生方に見ていただく公開授業となりました。最初の時間は「できること」「やりたいこと」「求められていること」の3つの輪が重なるところに、よいテーマがあると学び、自分のテーマを真ん中に近づけることを行いました。生徒たちは最初こそ少し緊張気味でしたが、先生のわかりやすい手法を学び、またグループ内で意見交換をしながら、積極的に取り組んでいました。

後半は、自分の「問いをずらす」ことで、リサーチの道筋が見えるものになり、自分のやりたいことが明確になることを学びました。今後3月の東京研修に向けて、今後も、さらに情報収集を重ね、それぞれの問いをブラッシュアップしていく予定です。

